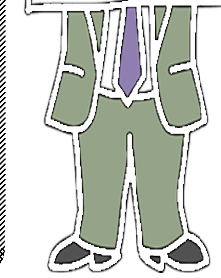


吉田喜一 教授の ものづくり 工学便り



高専とともに五十年

私は、1948年一月荒川区日暮里生まれの団塊世代です。中学三年の夏休みに父親が、長患いの末亡くなりました。これで高校は無理かなと思いましたが、当時、全国的に高校進学率は六割くらいでした。大学など全く考えられない地域でした。小学校だけの学歴の母親は、せめて高校くらいは行かせたいと言ってくれました。

南千住に中学二年生の時、都立航空工業高等専門学校が創立されました。入試倍率は十倍を超えていましたが、運良く機械工学科に入学できました。中学の担任の先生のお世話で、狭田診療所（今の荒川生協病院）の受付のアルバイトをさせていただきました。親戚の叔父や叔母の助けもいただきましたが、68年三月高専を卒業しました。四月に旧通産省に入省し技官になりました。外資法、外為法に基づく技術導入審査の仕事でした。また公害基本法、機械工業振興臨時措置法（いわゆる機振法）にもかかわりました。仕事は大

変やりがいがあり、日本の技術と経済、そして法律を勉強することができました。

高専卒業後、すぐに卒業研究指導教授から助手のポストがあるので、高専に戻ってこないかとの打診を頂きました。相当悩みましたが、結局通産省を辞し69年四月母校の助手になりました。工作機械（金属を削る機械）の振動と加工精度の研究と教育にかかりました。途中、都立大学（B類、昼夜開講制）といって主として夜間）でも学ぶことができました。また、博士論文は千葉大学でお世話になりました。以来2012年三月まで四十三年間常勤教員として高専に勤務し、定年後更に非常勤講師を頼まれ現在に至ります。高専五十二年の歴史で学生として五年、教員として四十五年、合計ちょうど五十年高専にお世話になりました。

全国的には高専発足以来、約四十万人の卒業生を送り出しました。現在国立五十一校、公立三校、私立三校で約五万人の学生が学んでいます。今秋は、日本機械学会や技術史教育学会などで高専五十年をふりかえり、高専の特徴、役割を再確認するための論文を発表しています。



消費生活アドバイザー 佐藤 祐一郎

消費増税 延期は決まったけれど：

こんにちは。メガネのサトウ4代目です。先週、消費増税の延期が発表されて、やれやれ、と思った方も多いのではないのでしょうか？小売業を営む私にとっても、お客様への負担が増す増税は、売り上げを左右する要因の一つであるため、関心を持ってニュースを見ていました。

個人的には、できれば消費増税はしてほしくないと思う反面、今の「借金大国ニッポン」が、このままではいずれ危機的状況を迎えることも考えられ、その点では増税も止むを得ないか、と思う気持ちもあります。もちろんその前に、まずは「身を切る改革」や「徹底した無駄の削減」を政治や行政に求めるのは至極当然のことだと思います。

ところで、第二次安倍政権になって以降、確かに円安・株高傾向が進み、企業業績もひと頃よりは随分回復し、雇用にも良い影響が出ていと言われています。しかし、賃金の本格的な上昇には至っていないためか、景気回復が実感できないという声を耳にします。要するに、お金の循環（＝経済学でいうところの富の再分配）がうまくいっていないことが問題であり、このことが増税延期を決定付けたということなのでしょう。

昇だけで実現するのでしょうか？私は、もう一つ、お金の循環を妨げているという点で気になっていることがあります。それは、「持てる者」による富の固定化の問題です。まずは、遊休不動産について、その活用や売却を促し、さもなければペナルティ的な税を課すなどして、資産の溜め込みを抑制したらどうでしょうか。身近な例として、商店街の空き店舗や、住宅地の空き家の問題が挙げられます。条件によっては入居希望者が存在するのにもかかわらず、所有者は、家賃を下げるわけでも、誰に貸すわけでも、売却するわけでもありません。そうせずとも生活できる「持てる者」は、タンス預金のような感覚で、金融資産として空き店舗や空き家を保有していると指摘する人がいます。

これを解消することで、お金の循環が生まれ、商店街衰退や住宅問題解決の糸口になったり、防犯・防災やコミュニティーにも好影響を及ぼしたりと、社会全体の活性化が期待できます。副次的には、税収の向上にもつながると思うのです。



■メガネのサトウ■
南千住5丁目43の13
【コツ通り】TEL 03 (3806) 4930
★休業日のご案内【不定休です】★
11月：24（振替休日）
12月：2・9・16・23（火）
※年末・年始の休業等については、来月号でご案内いたします。
★営業時間のご案内★
平日（月～金）：AM 9時～PM 6時30分
土・日：AM 10時～PM 5時